

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0972400261 | | |
| 法人名 | 医療法人 翼望会 | | |
| 事業所名 | グループホーム ひかり | | |
| 所在地 | 栃木県佐野市葛生東1丁目15番9号 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年9月16日 | 評価結果市町村受理日 | 平成25年1月28日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|---|
| 評価機関名 | 社団法人 栃木県社会福祉士会 |
| 所在地 | 宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケア・ヒス共同事務所内) |
| 訪問調査日 | 平成24年10月18日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事はもちろんそれ以外にも入居者の希望に沿った外出を取り入れ、四季の変化を楽しみ、不十分な部分はあるが地域の方々とのつながりや触れ合いを大切にしようとして心掛けています。外出を通して、認知症になっても生き活きと生活できることを地域にアピールしている。また、法人内には診療所や歯科、訪問看護ステーションが併設されており、医療的な支援を受けやすい環境にある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○近隣には美術館や図書館、保育園等があり、閑静な場所に位置している。
 ○医療法人が母体で隣接している為、医療との連携が密である。
 ○「その人らしく暮らす家」という運営方針を管理者、職員が共有し、利用者中心の支援をしている。
 ○管理者をはじめ、職員全体に穏やかな雰囲気を感じられる。職員は利用者とのコミュニケーションや笑顔を大切にしており、丁寧に関わりながら利用者の表情や反応等から気付いたことを次の支援に活かしている。又、利用者が楽しみを持って暮らせるよう、外出やレクリエーション等の活動を大切にしている。
 ○地域の行事への参加やボランティアの来訪、日頃の散歩等で積極的に地域と交流している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 運営方針(理念)、また基本構成を掲げている。理念の実践のために、毎日の朝礼や日々の介護の中、カンファレンス等の際に入居者の方への具体的な対応等話し合っている。 | 「その人らしく暮らす家」を運営方針(理念)とし、「ゆっくり」「いっしょに」「楽しむ」を柱とした基本構成を掲げている。管理者、職員は会議や朝礼のみならず、必要に応じて話し合い、理念に立ち返りながら利用者中心の支援を行っている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 日常的に買い物や散歩、地域の行事等に出掛け、近所の方や知人の方と挨拶を交わしたり話をされている。近所の方から花や野菜を頂いたり、犬を飼っている方が定期的に訪問している。 | 地域の行事、近所への買い物や散歩に出掛けている。近所や知人の方との日常的な交流をきっかけに事業所へ犬と一緒に訪問して下さる方や花や野菜を持って来て下さる方がいる。又、ボランティアの来訪や中高生の実習を受け入れている。 | 家族をきっかけに広がった関係も含め、地域との交流や町内への広報誌の回覧等の継続を期待したい。又、地域貢献出来る方法を模索しながら発信し、更に地域での認知度が上がることを期待したい。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 散歩や買い物、外出行事、またホーム内での行事等にて、職員の入居者の方々との関わりを地域の方々が知る機会となっている。また、広報紙を4回/年発行、地域への回覧を通し、理解に努めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 委員の方々には、ホームでの取り組みやサービスの評価について説明し、意見を出して頂き広報紙回覧の改善や消防訓練の法人内の連携についての再確認等行うことができ、会議での意見がサービス向上につながっている。 | 本人、家族、民生委員、地域包括支援センター等が参加している。利用状況、活動状況を報告し、行事は写真で見える形にして伝えている。又、意見交換や質疑応答を行い、サービス向上に活かしている。会議録は、毎回家族へ送付している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 事故発生時の報告書提出時や、法令・加算等に関する助言等頂き、サービスの質の向上に努めている。 | 法制度、事務手続き等について随時相談し、助言を貰いながら、サービスの質の向上に努めている。又、市へ運営推進会議の議事録を提出している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束において禁止の対象となる具体的な行為等勉強会を通し理解を促している。門扉の施錠について、検討を重ね、可能な範囲で鍵を開けておくようにしている。 | 身体拘束について勉強会を行い、職員の共通認識を図っている。利用者一人ひとりの状況を把握し、見守りを徹底することで日中鍵をかけない自由な暮らしを支えている。外出しそうな様子を察した場合には一緒に付いてく等、個別対応し、近隣の方に説明して協力していただいている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止についての勉強会を実施し、虐待防止に努めている。又、栃木県高齢者虐待防止マニュアルを職員が見やすい場所に置いている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 日常生活自立支援事業を学ぶ機会をとることはできなかったが、成年後見制度について勉強会の機会を持ち理解に努めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時や退去時に十分説明を行い、納得いただけるよう対応している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 自由に思いを話せるよう環境を整え、また、ご家族来居時には、意見の情報収集に努めており、要望や不安等について表せる機会を設けている。 | 普段から本人の言葉で思いや要望を記録している。家族からは来所時に話を伺うようにしている。又、カウンターに記入用紙を置いたり、運営推進会議の参加や苦情受付機関の説明をしたり、意見、要望等を表せる機会を設けている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 会議時や普段のコミュニケーション、アンケート等にて提案を聞き出し、どのように反映させていくか会議等にて検討している。 | 管理者が職員の話や個別に聞いたり、アンケートをとったりして意見や提案を聞く機会を設けている。内容によっては管理者が相談に乗りながら担当者に任せたり、会議等で検討し、確認、修正したりしながら利用者中心の支援に反映している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 法人で就業規則等の改定を行い、給与規定等見直しを行った。また残業に対する独自の規定の作成をし環境整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修計画をたて、法人内外における研修の機会を設けている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | 外部実習に来る他事業所との情報交換や、管理者の外部研修等を通してネットワーク作りを行い、サービスの質の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用前に本人と会い、話を聞くよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に会うことが難しい場合は、電話にて、時間をかけ聞く機会を作っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人の状態を聞き、情報の提供をしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 趣味、特技、裁縫、歌、家事仕事等を一緒にやりながら、入居者に教えてもらったり相談にのったりして、喜怒哀楽を共有している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居前や入居後の面会時等を利用し、家族と話す機会を作り、本人の状況や希望を伝え、一緒に支えていけるよう働きかけている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入居前にいた施設も含め、家族や本人から情報収集をして出掛けたり、可能ならば知人が会いに来りやすいよう、家族の方に協力の声掛けや馴染みの方に再度来居して頂けるように声掛けしている。 | 本人や家族から近所や交友関係等の情報収集をしている。了解を得た上で、知人に気軽に来所していただけるよう声掛けをしている。同法人の施設を利用している知人との交流も大切にしている。又、馴染みの場所に可能なら出掛けている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日常の様々な場面で、気の合う方と同じテーブルになってもらったり、他の方とのコミュニケーションの間に入る等して関わりをもてるようにしている。また、生活の中でできないことを、できる入居者が手助けをしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 家族や退去後利用の施設、病院関係職員とコンタクトをとり、又、家族、本人ともコミュニケーションをとっている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々のコミュニケーションの中で意向の把握に努め、記録等を通し情報の共有を図っている。困難な場合は、職員で意見を出し合い生活歴等探りケアをしている。 | これまでの生活、仕事や趣味等の情報を丁寧に聴き取っている。日々のコミュニケーションも大切にしており、表情や反応を個別に記録している。楽しみ等、多くの選択肢を持てるよう職員間で随時情報共有をし、希望や意向の把握に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前や入居後の面会時等を利用し、ご家族と話す機会を作り、把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々、その方の言動を大切にしながら記録に残し把握するように努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 家族から生活歴や意向の聴取、居宅ケアマネ等関係職員からの情報収集を踏まえて意見を出し合い介護計画を作成している。また、次の介護につながる記録の書き方に努めている。 | 日頃の関わりの中で本人の希望、不安なことを聴き取り、家族からの情報、主治医、管理栄養士等の意見や助言も踏まえながら、利用者中心の介護計画を作成している。次に繋がる記録を残しており、モニタリングも丁寧にやっている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々、次の介護につながる記録を心掛けている。また、情報の共有が図れるように申し送りノートを活用している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 入居者の身体の状況により、同法人の理学療法士や作業療法士に必要時は本人にあった車椅子やシューズの選定の相談をしている。又、看護師が週2回、訪問看護ステーションから訪問してくれる体制になっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 行事等でボランティアの方に来て頂き一緒に歌や踊りをしている。中学生や高校生の実習、ボランティアもあり交流を楽しまれている。近隣の犬を飼われている方が定期的に訪問されている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 状態に応じ、家族の意向も踏まえながら受診している。外部機関との関わりの際は、必要時は手紙を通しかかりつけ医に現状の理解をしてもらっている。 | 入居後の希望により同法人の医院が殆どの利用者のかかりつけ医である。家族の協力で馴染みのかかりつけ医にも受診継続している。必要時には本人状況を医療機関に書面で報告している。24時間受診体制があり、訪問看護とも連携している。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護ステーションとの契約により週2回看護師が訪問しており相談できている。24時間何かあれば連絡できる体制となっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は書面にて情報提供し、その後は随時連絡を取り合うようにしている。病院関係者との関係作りをさらに深めていく必要がある。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 「重度化した場合における対応の指針」「看取りに対する同意書」を入居時に確認いただいている。必要時は書面を作成し、状態に応じ家族や主治医と相談し、今後予測できる状況を踏まえ支援の方針を定めている。 | 入居時に書面でホームで出来る最大のケア（在宅酸素療法・点滴等）について説明している。本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員、特に訪問看護と連携を密にとりながら方針を共有し、支援に取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 一般的なマニュアルがあり、消防署又は、法人内で救命救急の講習を職員が受講している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 2回/年、地震時や昼夜におけるホームでの通報訓練、消火訓練、避難訓練を行っている。地域の人達の協力体制は課題がある為、ひかりが地域へ貢献できるよう働きかけを行っている。 | 9月には夜間避難訓練を実施し、民生委員も参加している。非常用として3日間分の食糧備蓄をしている。地域の協力体制作りは、高齢の方が多く難しさを感じているが、声掛けしたり、地域貢献できるよう働きかけを継続している。 | 日用品の備蓄の検討等、今後も改善点に積極的に取り組み、地域への働きかけの継続を期待したい。又、避難所としての受け入れを広報誌等で発信し、社会資源としても地域貢献していくことを期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | トイレのドアの戸閉めや入り口のドアのカーテンの開け閉めなど外から見えないような配慮も心掛けている。コミュニケーションについての勉強会も行い、言葉かけにも注意し入居者一人ひとりを尊重した対応を心掛けている。 | 居室に入る際に確認する等、プライバシーに配慮している。又、本人の気持ちを大切に、意思確認を行いながら対応している。勉強会を行い、一方的ではない、本人の理解度、場面に合わせた言葉遣い、自己決定しやすい声掛けを行っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | コミュニケーションを多くとり、職員が断定した話し方をせず、問いかけるように希望を引き出せるような声掛けをしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 起床や入浴、食事に掛かる時間等、本人なりのペースに対応できるよう努めている。また、コミュニケーションを通し、希望の把握に努めている。業務はあるが、極力入居者の方に感じさせず生活できるように配慮している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 入居者の方の好みや着たい洋服等その都度選んでいただき希望に沿えるよう努めている。自分で化粧をされている方や希望者には職員が化粧のお手伝いをしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 一人ひとりの好みの把握に努めている。一緒に食事準備を行い、談笑しながら食事を摂っている。また、畑の野菜を収穫し、好みの調理を一緒に行っている。好みに応じメニュー変更もしている。 | 職員と利用者が一緒に準備や片付けを行っている。又、テレビを観たり、話をしながら楽しく食事できるよう、雰囲気づくりを大切にしている。畑の野菜や季節の食材を取り入れたり、誕生会等にはケーキを食べたり、外食にも出掛けている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 管理栄養士からの参考資料を元にメニューを作成している。1回/4週間の主治医の往診時に状態に応じて塩分制限等食事のバランスの確認をしている。水分が少ない方には、食事時以外にも随時摂取してもらっている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 入居者の状態に合わせ、基本的に毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、困難な方は状況に合わせて職員が支援するようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 排泄チェック表を活用し、個人の排泄パターンを把握しながら本人に合わせた排泄を心掛けている。医療的な指示、身体的負担を考慮した入居者を除き安易にオムツにせず、日中はトイレ介助を心掛けている。 | 個別に排泄チェック表をつけ、本人のパターンに合わせた促しや支援を行っている。自尊心に配慮し、身体状況等を考慮しながら、トイレでの排泄を大切にしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事に繊維質の多いものを取り入れるようにしている。散歩や体操等で身体を動かす機会を設けており、水分補給にも心掛けている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 入居前に、家族や関係機関より情報収集し一人ひとりに合わせている。また、本人のペースで入浴して頂けるよう努めている。可能な範囲で夜間入浴できるようにしている。 | 時間や回数等、利用者一人ひとりの入浴習慣、希望に合わせて入浴できるよう努めている。必要に応じて、職員2名で介助したり、見守りを行い、安心感を持って入浴していただけるよう支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 疲れたら休むよう声掛けし、個人の希望で眠れるように支援している。また一人ひとり安眠できるよう環境整備にも配慮している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬が新しく処方になった時や変更になった時は、内容をノート等に記録し、又薬の詳細が記載された用紙をファイルに綴じ全職員が把握できるようにしている。入居者の変化等記録に残し、主治医へ伝えるようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居前に、家族や関係機関より情報収集し、家事仕事、畑仕事、買い物等の役割や楽しみごとが持てるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 入居者からの希望で家族へ連絡し外出の相談を必要時はしている又、お祭りをより楽しめるよう民生委員の方からうちわを人数分いただき協力下さった。買い物や散歩以外にも希望を聞きながら外出支援を行うよう努めている。 | 日頃から散歩や買い物に出掛けている。又、花見や紅葉狩り等の行事にも出掛け、利用者の楽しみにもなっている。本人の希望によっては、家族に協力を依頼している。外食にも出掛けており、積極的に外出支援をしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人や家族と相談し、希望により個人でお金を管理しており、買い物やお出掛け時に使えるようにしている。自分で所持することが困難な方は、職員で預かり、可能な範囲で本人が購入したいものを買えるよう努めている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族にも確認しながら、本人の希望により、家族に電話を掛けられるよう支援している。自ら電話を掛けている方もいらっしゃる。手紙のやり取りをしている方は現在はいないが希望があれば検討したい。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節の花々を飾ったり、健康を損ねない程度にエアコンは入居者の希望時以外は使用せず、外の空気を感じ四季を室内でも感じられる空間作りを心掛けている。 | 近所の方や職員が持って来てくれた花や季節の作品を飾ったりして、四季を感じられる工夫をしている。トイレの表示を分かり易くしたり、居室の表札を希望しない方には目印を置く等して混乱しないよう配慮している。脱衣所にのれんを付ける等、生活感や温かみのある空間作りがされている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 東と西ホール・畳コーナーと分かれており、希望を聞きながら思い思いに過ごせるよう配慮している。窓際で1人で過ごしたい気持ちの時はそのように配慮したり、気の合った人同士で座れたりできるよう配慮している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人や家族と相談し、可能な範囲で家具や写真等持ち込みされている。 | 家族にも協力していただきながら、本人の使い慣れた鏡台や扇風機等の家具や家電が持ち込まれている。又、写真やカレンダーを飾り、利用者一人ひとりが居心地よく過ごせるよう配慮している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ホーム内は全てバリアフリーとなっている。トイレの場所が分かりやすく表示し、希望者には居室に表札をつけている。転倒のリスクのある方の室内は家具類の配置等に配慮し安全かつなるべくできる力を活かせるよう努めている。 | | |